鳥羽市地域自立支援協議会「トバ！鳥羽チャレンジ」

［三重県鳥羽市］

ここに注目

- ✔ 人口約２万人のモデル
- ✔ 「ニーズの読み解き」と「編集」
- ✔ 当事者参加、住民参加

1 地域の基本情報

人口・世帯数	22,120人、　※H22.11.１現在		
面積	107.98㎢		
地域特性	鳥羽市は人口２万人強の小さいまち。 年間約430万人の観光客を迎える観光地。養殖真珠発祥の地であり、山・海ともに自然豊富な町でもある。自然美豊かな４つの有人離島がある。		
手帳所持者数 ※H22.３時点	身体障害	知的障害	精神障害
	1,066人	156人	74人
社会資源の状況等	就労継続支援Ｂ型事業所２箇所（内１箇所は、生活介護・就労移行支援の多機能型） 児童デイサービス事業所１箇所 基準該当事業所（生活介護）１箇所 地域活動支援センター１箇所・日中一時支援事業所１箇所		

※参考：鳥羽市ホームページ（http://www.city.toba.mie.jp）

2 地域の相談支援体制

○現在の委託相談支援事業所は１ヶ所である。社会福祉協議会に１名のスタッフがいる。

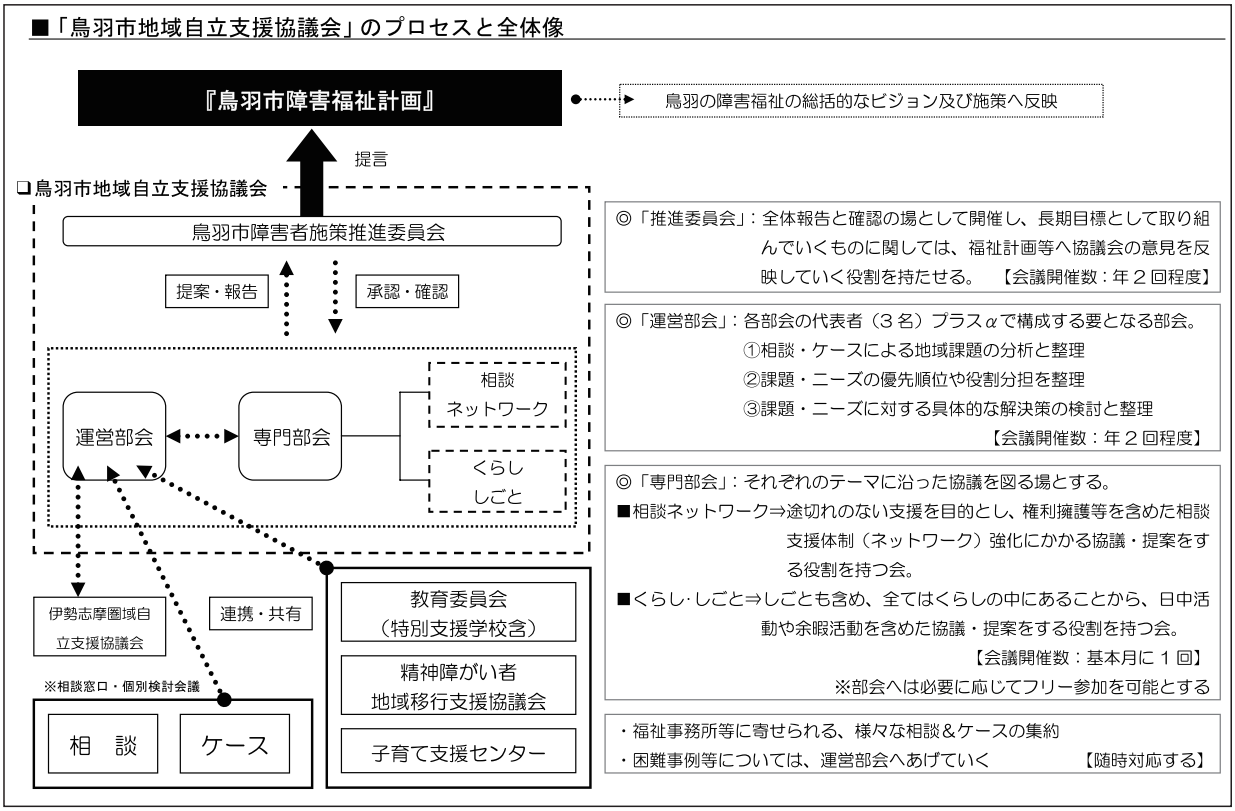
○誰もが気軽に相談できる窓口が本来であれば望ましいが、現状としてそれができていない状況にある。相談員の増員やスキルアップはもちろんのこと、行政職員としてのスキルアップも必要と感じている。

○指定事業所にはサービス利用計画作成費の実績はない。

○市役所の担当部署には、市職員（臨時）として精神保健福祉士が在籍している。

3 地域自立支援協議会の組織体制・運営状況

⑴ 準備・立ち上げ期（平成21～22年度）



○平成21年から、三重県からも自立支援協議会の設立に向けての促しがあったが、他市町の状況を見ていると、要綱と形だけが作られ形骸化している状況が読み取れることから、より機能的な自立支援協議会の設立に向けて、会自体のシステムを多くの方々と一緒になって作り上げていくこととした。設立に向けては、６回の準備会を開催し、勉強会やグループワークを通じて、専門部会で議論した案が市の障害者施策推進委員会へ提案されていく形とし、検討してきた内容が市の施策または事業として、具体的な形になっていくようなシステムとなっている。

○また、研究者（大学教授）にも準備会段階からアドバイザーとして出席をお願いする中で、行政が前に出る形ではなく、できるだけ参加者（当事者・家族・その他支援者等）の意見を表面化していく方法で、準備会を進めてきた。

○部会をフリーで参加できる形にした。そのことによって、ボランティアや当事者および保護者の方の参加がしやすくなり、参加した人が次回知り合いを連れてくることもあり、広がりをみせている。また、時間帯もたくさんの方が参加しやすいように19時からの設定になっている。

○障害者施策推進委員会へも、専門部会メンバーがオブザーバーとして参加し、協議会全体としての提案や思いが、より伝わりやすいような形をとっている。※部会メンバーも、委員と同じ机に並び、みんなが参加しているという雰囲気を出すよう工夫している。

○専門部会では、当事者が自分の困りごとだけでなく、周りの人の困りごとの支援を一緒に考え、共有する雰囲気にもなっている。就労においても、使ってくださいではなく、自分達から地域に入っていかないと使ってもらえないよね。と当事者だけの視点ではなく、地域からみた視点での気付きの場にもなっている。

⑵　基本的な進め方　「ニーズの読み解き」と「編集」

■基本的な考え方･･･実は、このプロセスに沿って進めています

■□■　基本的な進め方　■□■

①「読み解き」･･･当事者が求めるニーズや、個別ニーズに基づく普遍的な課題は？

⇒「ニーズ」や「課題」の洗い出しするためにフリートークを行います。

②「編集」･･･読み解かれた課題をどのように加工して組み立てるか？

⇒フリートークの中から、今本当に必要なもの（方向性）を見つけ出し、それを実現していくためにはどのようなことが考えられるかを、具体的に考えていきます。

③「組み立て」･･･実践組織による実践化、市町村による計画化と事業化、国・県の政策化

⇒②で編集された提案は、実施可能なものになるよう行政等の計画及び事業へ反映していく。
※みなさんのモチベーション維持のためにも、獲得目標を掲げます

[redacted]

⇒　自立支援協議会において協働で行う作業
※これまでは政策が組み立てられる際に、読み解いた課題の編集場面に当事者が入っていなかったために、本来必要とされる政策が確立されてこなかった。
自立支援協議会では、現場を変える様々な提案を「協働編集」を行い、それを政策へ反映していく場所である。

☆専門部会では、上記の「読み解き」「編集」までを行い、様々なアイデアを実現するための提案をしていくところまで実施をしていきます。

○鳥羽市の自立支援協議会では、プロセスを大事にしている。ニーズや課題を洗い出す作業はフリートークまたはKJ法を使いニーズを洗い出し、編集作業として、読み解かれた課題を今本当に必要なものは何か、方向性を見つけ出し、行政等の計画や事業に反映していくプロセスを大事にしている。自立支援協議会で「読み解き」「編集」の共同作業をしている。

○また、自立支援協議会のポイントとして、
①自立支援協議会はチーム作りがキー！
②主役はみんな！みんなが参加し話し合いができる場の創出を！
③分野を越えた様々なアイデアのネットワーク化！
④個人のケース検討の場ではなく、地域としての“しかけ”を考える！
⑤長期目標はみんなが共生できるまちづくりを！
の５つを上げている。

4 具体的な活動成果

○鳥羽市の相談ネットワークのイメージ創出と地域における課題やニーズの洗い出しを目的としたワークショップを実施。この作業により、「相談窓口の明確化」「一貫した相談体制の確立」が大きな方向性として導きだされた。今後は、これらの方向性を具体的に展開していくためにどのようなことができるかを、自立支援協議会の場において立案（実現・実践）していく予定。

《具体案》
①サービスガイドブックの作成
⇒本人・家族相談へ活用および企業説明時の活用
②本人サポートブックの作成
⇒相談ネットワークの確立に向けたツールとして活用
③就労相談の強化
⇒鳥羽バーションの総合コーディネーターの擁立・市内企業へ対する理解促進・派遣行子会社の研究・ジョブコーチや就労サポート制度の研究と活用
④啓発活動
⇒自立支援協議会や障がい特性等についての啓発活動
⑤生活介護施設の設立に向けた具体的な検討
⑥生活介護施設の設立と併せて、それに付随する地域生活の場の検討

○具体的な成果については、現状はまだなく平成23年度に生活介護施設を建設する予定である他、サービスガイドブックの作成や、就労支援のために障がい特性を知っていただくための企業訪問調査、余暇活動の充実等の事業が予定されている。

5 運営評価指標からみた活性化のポイント

①課題の抽出	○準備会においては、グループワーク（KJ法）による課題・ニーズを出し合うことから始めた。また、協議会設立後においても、それぞれの部会において、課題やニーズの洗い出しから始めている。 たとえば、「相談ネットワーク部会」では、「あったらいいね。こんなもの。。。」と題して、小学生編と成人編において必要と思われるものをKJ法にて洗い出して、一覧表を作っている。 ○その際に、専門機関についての必要性だけでなく、ピア・友人・近所などの地域支援の必要性についても意見が出てきている。その理由は、参加者が子育て支援センター・保護者・中途障がいの当事者・包括支援センター・精神相談員・防災ボランティア・事業所・当事者の父などが参加し、参加した人がまた次の参加者を呼んでくる仕組みになっている。また、たくさんの方が参加できるように、19時～21時の会議設定をしている。 ○会議で出た意見（模造紙のポストイット）をそのまま表現するのではなく、事務局（市役所担当　宮本さん）が図にしてわかりやすく表現し、カテゴリーごとに分ける、優先順位をつけていくなど、課題・ニーズの読み解き作業を行っている。そのために、次の話し合いにつながる資料作りができている。
②社会資源の開発改良	○「くらし・しごと部会」において、「日中活動の場の充実」を目的として、「生活介護施設の建設」について議論を進めてきた。ついては、平成23年度中の建設（平成24年４月サービス開始予定）の目処が大方ついてきている形となった。生活介護施設については、運営自体も「運営協議会」のような形で、建設後についても当協議会が関わっていくシステムを考えていく予定。 ○「就労支援」という面では、福祉就労と一般就労の両面を捉え、ハローワークや就業・生活支援センター、就労継続支援Ｂ型事業所の担当者を招いて勉強会を行い、現状の課題等を共有したうえで、それぞれの就労にかかる開拓・拡大について議論を進めていくところである。 ○人口22,000人の市であり、サービス事業所については、隣町までいくケースも多い。市内にはＢ型事業所が２ヶ所のみである。生活介護のあり方についても、DVDでの勉強会を行い、視察に行き、その情報をフィードバックして、鳥羽市にとって、そして実際に利用する方にとって使いやすい施設のあり方（機能等）について議論を行い、必要な機能について文章化し、実際に図面に起こすところまで、住民・当事者参加で行っている。
③行政の関与	○各部会からの提案については、「市障害者施策推進委員会」を経て、事業化（予算化）がされる見込みとなっている。主な事業については、「生活介護施設の建設」「サービスガイドブックの作成」「余暇活動の充実の場創出」等がある。 ○次年度（23年度）が計画の見直し時期にあるため、協議会としても同計画の策定に向けて協力を得ていく予定となっている。協議会自体が現場の声を拾い上げていくことを持ち合わせているため、会の意見は反映していけるような形にしたいと考えている。行政も市民の意見でできている。予算付けにも自立支援協議会は大事な機関だと感じている。 ○教育委員会及び子育て支援センターから、部会参加をしており、風通しもよくなってきている。本年度は、総合相談窓口の設置に向けた話し合いが持たれた。今後は、観光部署や商工部署との連携も視野に入れていく予定。 ○自立支援協議会の運営については、相談支援担当職員と市の担当職員が共同事務局で行っている。市の担当者が住民参加で話し合われた内容を、視覚化された資料として落とし、次の話し合いがスムーズに進む準備を丁寧に行っている。また、相談支援の窓口が市の担当者と同じ場所にあるため、個々のケースの困難さも共有している。

④構成員の参加	○参加者によって、知識レベルも様々であるので、勉強会等を通じてある程度一定の知識レベルを保てるようにしているが、まだまだその差は感じられる。ただ、それぞれが得意とする部分でのアイデアは出てきているので、その面は多分野に渡る構成員の参画が良い方向に動いている。 ○当初は事務局において、関係するであろう部署に対し、出席依頼を行った。ただ、専門部会においては、多くの意見を吸い上げたり、参加者の拡大（＝それが協議会の存在感アップにもなる）につながったりすることを目的に、フリー参加としている。参加者については、口コミでひろがりつつある状況にある。 ○鳥羽の地域性「観光」「離島」「南鳥羽」「資源（施設等)」を勘案した人選を！長期的な戦略として「まちづくり」につながればという思いから、「福祉」という枠を超えた様々な分野の声を拾い上げることが重要だと感じており、第三者の目（今まで福祉にかかわってこなかった人等）から見たアイデアの創出と他業種にわたる連携強化にもつながることを期待している。

6 まとめ

鳥羽市は２万人強の小さな市です。フットワークの軽さ、臨機応変な対応を可能な限り実現できるような形を見出し、「小さなまち」だからこそできるメリットを十分に生かした協議会運営・活動を実施しています。以下３つが鳥羽市の自立支援協議会のすばらしいところです。

＊課題抽出のプロセスを大事にしています！

また、ニーズや課題を洗い出す作業や読み解かれた課題をどのように組み立てるか？の編集作業を大事にしています。

＊当事者参加・住民参加で部会を行っています！

時間帯や参加の仕方（グループワーク・KJ 法）など工夫し、当事者・家族の方の参加をはかっています。

＊具体的な社会資源開発に取り組んでいます！

今ある社会資源を検討し、本当に必要な社会資源を他市町を視察し、また当事者の意見を聞き取って、実際に作るところまで取り組みつつあります。

（その他：自立支援協議会の準備を大切にしました。自立支援協議会の意味や活かし方を話し合った末に設立しています。）